



新たな取り組み

当苑ではご家族との面会について感染症の状況を鑑みつつ、やむなく制限をさせていただいており、その中で取り組み始めたのがWEB面会と窓越し面会です。直接は会えないけれど、画面越しでもご入居者の表情を見ていただくことができ、

ご家族からは「安心した」と喜びの声を多数いただいております。

また、面会の新しい形として、窓越し面会を年末年始の4日間実施いたしました。事前予約制で、1家族10分という短い時間ではありましたが、「元氣そうで良かった」「顔を見られて安心したよ」などと会話される様子が見

WEB面会・窓越し面会



られました。面会を終えたご入居者も、ご家族と会えた喜びを



職員へ話していたり、何より皆様が笑顔であつたことが印象的でした。ご家族から「このような機会を作っていただきありがとうございます」とのお言葉や「また窓越し面会をお願いします」というご要望も多数いただいたため、2月21日～3月28日の間、日曜日限定となりますが、窓越し面会を行うことになりました。

この状況下、面会ができないという不安の中、少しでも安心していただけるような取り組みを今後も継続していきたいと思

文集

なぎさ

第76号

なぎさ和楽苑

令和3年5月26日発行

人生の大先輩からの愛情

苑長 池田めぐみ



「いつも良くしてくれる。感謝している」。90歳を超える入居者からの言葉である。何か困ったことがないだろうか、とじっくり話を聞くとようやくポツリとつぶやく。90年の歴史を駆け抜けた人生の先輩は、若輩者の私たちのことを温かく見守ってくれ、そして気づかせてくれる。私たちは、入居者やサービスご利用者のホンネや想いをどこまで聴くことができるだろうか。遠慮や我慢をされていることがあるのではないだろうか。かつての先輩介護職員の中には、健康や生活を考え、本気で入居者とぶつかりあい、お互いにホンネを言う姿に、ドキドキしながら見ていたこともあったが、身近にそばにいる者として、心情的にも専門職の立場を超えた関係性というものも生まれてくることは確かである。なかなか思っていることを言葉にするのは難しいものだと感じるが、耳を傾け、寄り添い、向き合う姿勢は大切である。90歳の大先輩のつぶやきには、重みと愛情を感じさせられるものであり、一人ひとりの職員の成長を見守ってくれている視線がそこには表れていた。私たちはその懐に甘えることなく、専門職としての成長と、社会経験、人生経験を重ねながら人間成長につなげていきたい。





▲池田苑長から甘酒のプレゼント

〈和 会〉

新年祝賀式の後に和会と題して、ご入居者・職員とともにお正月の雰囲気の中、甘酒や和菓子を嗜み、書初めや福笑いに興じました。新型コロナウイルスの感染拡大が続いているため、今年は特別養護老人ホーム全体で開催するのではなく、各ユニットで日頃生活しているご入居者・職員とで、のんびりとしたひと時を過ごしました。また、新年の挨拶をかねて、池田苑長からご入居者の皆様に甘酒を手渡し「おいしかった」というお言葉をいただきました。



▲今年の干支を書きました



〈新年祝賀式〉



元日に新年祝賀式を開催いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大が続いているため、感染予防に配慮した開催となりましたが、例年通り、池田苑長挨拶をはじめ、年男・年女のご入居者、職員より今年の抱負の発表がありました。抱負の内容としてはご入居者は健康第一、職員は自らの課題への挑戦を掲げておりました。式の最後には、平井施設長代理の掛け声により一本締めを行い、良い年となるよう祈念いたしました。



〈なぎさ和楽苑40周年・特養55周年・長寿〉

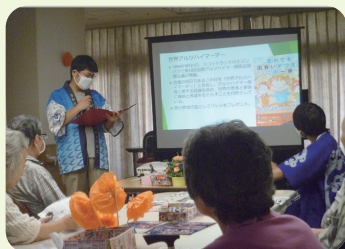
令和2年9月20日に、開設40周年を記念し、式典を執り行いました。昭和55年9月8日に江戸川区有地を無償貸与の下、区内の特別養護老人ホーム第一号として誕生し、今年で40周年を迎えました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染予防に配慮した開催とし、会場には祝賀者12名とそのご家族1名ずつの列席に限りさせていただきます、その他のご入居者・職員は各ユニットのリビングにある

テレビにて式典の様子をご覧いただきました。また、日頃よりお世話になっている江戸川区長 斉藤猛様にもご臨席いただき、ご挨拶をいただきました。

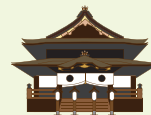
また、なぎさ和楽苑としては開設40周年を迎えましたが、前身である博愛ホームは昭和40年5月20日に東京都23区内で初めての特別養護老人ホームとして足立区に誕生しており、特別養護老人ホームの運営は今年で55周年を

迎えました。よりいっそう高齢者福祉の充実と発展に寄与してまいりたいとの決意を新たにした次第です。

さらには、なぎさ和楽苑最大の慶事である敬老行事「長寿を祝う集い」も行いました。ご入居者、ご家族、職員、ボランティア、地域の方々の協力の下、祝賀者・長寿者の皆様をお祝いできたのではないかと感じております。



▲スクリーンで善光寺めぐり



〈仮想旅行で『GO TO 善光寺』〉 ～短期入所生活介護事業所の取り組み～

「どうせなら、みんなで、長野への旅行気分を味わおう」

いつもは、リビングで雑誌を片手に話をする程度。江戸川区に居ながらにして旅行気分を味わえる、『仮想旅行』の企画の提案があり、実施することになりました。動画の編集や特産品(甘味)を準備するなど、利用者の方に少しでも楽しんでもらえるよう行程に工夫を凝らしました。行き届かないところもあったと思いますが、好評のうちに終了することができました。楽しい時間を共有できれば、仮想が現実かは、あまり関係なかったのかな(笑)。

〈あしたばオンラインカフェ〉 クリスマスバージョン



去る、令和2年12月20日(日)13:30から15:30に、今年度初の「あしたばカフェ」をオンライン(Zoom)で開催いたしました。

あしたばカフェは、メンバー、ご家族、ボランティア、専門職、地域の方が一堂に会することで、数多の交流が生まれる、活動の主たる部分でありました。新型コロナウイルス感染予防下で、なぎさ楽苑での飲食はもとより、集まること自体が危惧されましたが、家族会の世話役の方々と何度も検討を重ね、SNSを使用したカフェの実施に至りました。

当日は、12名が参加。クリスマスプレゼント付きのクイズ大会などもあり、楽しいひとときを共有し盛会となりました。一方、①電波の不具合による映像の乱れ②機器の操作に不慣れなための音声の中断③画面に映る顔の画像が小さく、参加者一人ひとりの顔が見にくいなどの反省点も挙がりました。

今後は、反省を踏まえつつ、あしたばカフェが担ってきた役割の代替をオンラインバージョンで目指してまいりたいと思います。偶数月の第3日曜日の開催を予定していますので、皆様のご参加お待ちしております。



▲クイズの合間の体操(ストレッチ)の様子



▲クリスマスの飾り付け&仮装

当苑の感染症対応について

新型コロナウイルスは、高齢者と基礎疾患がある方については重症化しやすく生命に関わることから、高齢者介護施設においては「ウイルスを持ち込まない、拡げない」ことが重要となります。厚生労働省が示した感染対策マニュアル等に基づき、利用者や職員、さらには面会者や委託業者等にもマスクの



▲ノータッチ式手指消毒器

着用や手指消毒の徹底をお願いしております。

職員は出勤前に体温を計測し、発熱や体調不良等の症状が見られる場合には出勤しないことを統一対応に。また、出勤後も体温計測と小まめな手指消毒を行っています。緊急事態宣言下においては、ご入居者のご家族との面会は、緊急時ややむを得ない場合を除き、WEB面会や窓越し面会を実施しています。委託業者等についても、物品の受け渡しは玄関など施設の限られた場所で行っており、立ち入る場合には体温を計測、発熱が認められる場合には立ち入



▲飛沫防止用仕切り

りを断ることなど、関係者が一丸となって取り組んでいます。

設備面では、救急車の車内に設置されているオゾン発生装置、プラズマクラスター搭載の加湿空気清浄機、各入り口にノータッチ式手指消毒器、飛沫防止の仕切りなどを設置。小まめな換気や消毒を行うクリーンタイムを実施し、安心してご利用いただける環境整備に努めています。

* * *

事務部 総務課 課長 阪本彰史

SCZ (ソーシャル・クローバー・ゼット) の取り組み

なぎさ和楽苑の相談職が「相談」の専門職として質の高いサービス提供を目指し、理想とする相談員像に近づけるよう、SCZは平成26年5月より活動開始いたしました。今年度は「ソー



シャルワーカーの倫理綱領を学ぶ【伝える力・聞き取る力を養おう】をテーマに勉強会を開催しています。感染予防のため、2グループ制にして密を避け、3回に分け、Zoomを活用した勉強会に取り組んでいます。

初めて参加した相談員からは「その方の背景を知ることの大切さを改めて感じることができた」「他部署の相談員と話がで



き、特色を知ることができた」などの感想が聞かれ、有意義な勉強会ができたのではないかと思います。

百人百様の悩み、相談がある中、今後も一人ひとりに親身に対応し、さまざまな問題に向き合える相談員を目指し、日々努力を重ねてまいります。

* * *

地域部 居宅サービス課
福祉用具貸与事業係

主任 古岡友喜

【SCZの愛称の由来】

ソーシャル

社会的に支援を必要とする人々と、その環境に働きかけを行う。

クローバー

花言葉「望みが叶う」利用者の「望みが叶うような支援」

Z(ゼット)

最終形態



顧問弁護士研修

令和2年12月16日、佐藤三郎顧問弁護士による、ハラスメントについての研修が行われ、法人下三施設の施設長及びチーフが参加いたしました。多岐にわたるハラスメントがあることから始まり、介護職員が直面するカスタマーハラスメントの話では、ハラスメントにあたる状況の確認や申告方法、事実確認、発生後の対応および事前対策など詳しい説明がありました。介護の現場で起こりえることを想定しての事前の準備、起きた際の適切な対応が重要であることが分かり、各施設での伝達研修を行うとともに、各ハラスメントが起きない、起こさないための取り組みの必要性を感じました。

3密を避けた会議の実施

これまで、各事業所での打ち合わせや事業を横断した各種会議は一堂に会し、意見交換をしておりました。会議室に20名前後が集まっていた会議もありましたが、3密を回避するに当たり、在宅勤務を含めオンラインを併用した打ち合わせ・会議に変更しております。開始した当初は、マイクのハウリングが収まらない、会話が聞こえない、資料の共有の仕方が分からない…など、さまざまなトラブルに見舞われましたが、最近では初步の段階は過ぎ、スムーズに行えるようになったと思います。施設内の会議に留まらず、外部で行われる会議・研修もSNSの

利用が主となっております。パソコン越しの会話・やり取りには徐々に慣れてはきましたが、対面でのコミュニケーションと比較したメリット・デメリットを感じております。

今後、SNSを利用した情報共有および提供は、介護報酬改定では「テレビ電話等を活用しての各種会議の実施を進める」との一節もあり、ご利用者、ご家族にとって有益な使用方法についてなごさや和楽苑でも議論を重ねてまいりたいと思います。

* * *

地域部 居宅サービス課

課長 遠藤信裕



▲オンラインでの演奏会

▶ボランティアさんからの手紙



ボランティアさんたちは今

コロナ禍により施設内でのボランティア活動が制限され、はや1年が経ちました。

毎週、毎月活動してくださる顔を合わせていたボランティアの皆様と会うことができないのは非常に心細い限りです。定期的に電話をさせていただき、皆様とたわいのない話をするのが私の癒しの時間です（頻りに電話をしてしまい申し訳ありません）。

さて、当苑では地域の皆様との繋がりを止めず、前進し続けるために非接触型のボランティアプログラムに取り組み始めました。「オンラインボランティア」と「手作りボランティア」です。

デオ電話ツールのZoomを使用し、ご入居者の方々とお話や交流、ボランティアの方の特技披露をしていただく活動です。



手作りボランティアは、ご入居者の日々の生活に彩りを添える装飾品をご自宅で作成していただく活動です。どちらの活動も施設に來なくてもできるプログラムになっています。

直接会うことに勝る活動はないと思いますが、「様式を変え、今できることを」を合言葉に、既に多くのボランティアの方々がチャレンジしています。

少しでも、「興味がある」「私も出来るかも!」と思った方がいましたら、お気軽にご連絡ください。皆様からのご連絡（癒しの時間）を心よりお待ちしております！

地域部 地域福祉推進課

地域連携推進係 釜島豪頭

* * *



YouTubeの動画撮影では、リーダー打ち合わせ

「脱! 健! 着! 患!」の作成を担当いたしました。

令和2年 介護の日

コロナの影響下で、地域の方々に当苑へお越しいただくことやイベント等の開催ができないことを想定し、「イベントを中止」するのではなく「私たちにできることは何か」を考えていく運びとなりました。

「Social Connection 心ここころ♡をつなげよう」というテーマを掲げ、介護や福祉に関わりの少ない地域の方々に介護について知っていただくため、SNSやリモート、動画配信等を活用いたしました。

今年はSNS(ホームページ、インスタグラム)や動画配信(YouTube、オンライン講座)、バーリンリリースを中心に活動することから、10月26日から11月21日までをイベント期間といたしました。私はYouTubeを活用し、「おうちでも出来る介護技術」「介護職員密着動画」の作成を担当いたしました。



の場を活用し、各フロアの介護職員に撮影協力をいただきました。ご入居者や職員のプライバシーを守りながら、専門用語を使わずに、かつ、地域の方々が見てわかるような内容にするにと非常に苦慮しました。

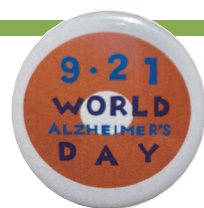
SNSや動画配信においては評価が見えづらいことや、継続性の保ちづらさ、介護の日だけではなく他イベントでの運用方法等の課題が見えてきました。今回は手探りでのスタートでしたが、次年に繋げられるものとなった気がしています。

生活部 介護課2階介護事業係

ユニットリーダー 井川和也

なぎさ和楽苑

アルツハイマーデーの取り組み



毎年9月21日は「世界アルツハイマーデー」と制定され、この日を中心に認知症の理解を深める啓蒙が世界規模で実施されています。当苑でも、『職員一人一人が、この取り組みの意味を知り、自分にできることから始めること』『苑内や地域へ認知症の理解を普及すること』を目標に、苑全体で9/21～27まで取り組みました。

期間中は、サービス部門ごとに、その特徴や工夫を凝らした取り組みを、ご利用者を交え展開しました。また、当苑の若年性認知症支援事業とコラボで啓蒙缶バッチを若年性認知症当事者の方々と共同で作製し、多くの職員が缶バッチを身に付け、普及啓蒙のメッセージを伝えました。

取り組み後、職員からは「施設全体での取り組みとして、一体感を感じられた」「アルツハイマーデーの取り組みを初めて知り、参加できて良かった」「特別ではなく日常場面で、認知症の理解を深めていく大切さを感じた」などの声が寄せられました。

私生活や仕事で「認知症の理解」「認知症とともに生きる社会」に向け、自分に何かできるか、私たちが主体的に考える機会として、次年度も活動の展開を考えていきたいです。

地域部 地域福祉推進課

東葛西地域包括支援センター事業係 係長 高根陽子

※認知症支援シンボルカラーの『オレンジ色』が苑内に溢れました



利用者からの声

コロナが落ち着いたら…



どういう生活が
したいですか？

何かしたいことは
ありますか？

【特養入居者】

- * 外に出てお日様にあたり、暖かい風を受け、おいしい駅弁を頬張りたい。具体的に行きたい場所がある訳ではないが、寒くない場所が良い。駅弁は種類が豊富であるため、その時の気分によって選ぶつもり。
- * しばらく会っていない友人に会いたい。携帯電話でやり取りはしているが、声だけではなく、友人の顔を見ていろんな話をしたい。気にかけて電話をしてくれる友人がいることは非常にありがたいことであると感じている。

【通所サービス利用者】

- * 家族で旅行に行きたい。
- * 自治会の活動に参加したい。
- * なぎさ和楽苑に通い続けたい。
- * おいしい物を食べに行きたい。
- * 墓参りに行きたい（帰郷したい）。
- * 保育園児、小学生との交流会を再開してほしい。
- * 広間（地域交流スペース）で歌や踊りが見たい。
- * マスクを着けるのは仕方ないが煩わしい。できるなら外したい。

職員
より

文集に寄せて



「君みたいな派手な顔の人はすぐに辞めちゃうんだよね」と、面接の際、平方前施設長に言われました。それが2000年4月。今年で勤続21年目になります。事務職経験が長かったので介護福祉の仕事は未経験。続くのか不安を抱えつつ、非常勤でくつろぎの間を担当し、翌年には常勤として特養等の部署を経験し、現在に至ります。

なぜ続けられたのか？ それはたくさんの方に支えられたからに尽きます。

最初はくつろぎの間のベテランボランティアの方。レクリエーションをするにも、軍歌や昭和歌謡の知識もなければ技術もない私を、さり気ない気遣いでサポートしてくださり本当に心強かったです。

特養でもボランティアの方々に助けていただきました。利用者の方々が快適に過ごせるように、掃除や外出支援等で支援してくださるボランティアの皆さん。業務に追われ、ご利用者とゆっくり向き合う時間が取れない…と悩んだこともありました。ボランティアさんと外出やお話しした後に、利用者さんが満面の笑顔を浮かべているのを見て、感謝の気持ちに満たされました。

もちろん職員の方々にも大変恵まれました。生きていけばいろいろ悩みも出てきます。そんなとき、さまざまな年齢層の職員から、酸いも甘いもかみ分けたアドバイスをいただきました。「元気づけなさい」ともらったおやつは、心と体にしみました。

新型コロナウイルス対策で交流の機会も減っておりますので、この場を借りて皆様への感謝の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございます。これからもよろしく願っています。

地域部 地域福祉推進課

地域包括支援センター事業係

主任 徳永康代

TOPICS

ヘルパー研修会



令和2年11月・12月と2回にわたり、「やまなかよろず相談所」の山中信子さんを講師としてお招きしヘルパー研修会を行いました。

訪問介護に関する、介護保険法、運営基準、老計10号、ヘルパーのできること・できないことなどを学びました。基本的なところではありますが、日々の業務の中で理解や意識が薄れてしまっていたり、ヘルパー経験の浅い職員もあり、わかりやすく説明していただきとても勉強になりました。加えて、日々の業務で良かったこと、悩みごとにも参加者全員で意見交換し、情報共有もできました。

今後もこのような外部講師の方から新たな学びを得る機会を増やし、提供サービスに反映したいと思います。

地域部 居宅サービス課 訪問介護事業係
主任 吉村拓明

■御寄贈の部
綿貫武尚様、松崎雅子様、片瀬里美様、森幸男様、しろひげ在宅診療所院長 山中光茂様、嶋田美保様、東京ヤクルト販売(株)葛西センター様、江戸川区社会福祉協議会様、なぎさ音楽家族会様、中村範子様、東京都公衆浴場業生活衛生同業組合 江戸川支部長 中山光雄様、平井香穂様、石井光男様、(株)ワイズマート名誉会長 吉野喜信様、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン様、(有)花銀様、菊地郁子様、伊奈美代子様、新田町会会長 菅原豊様、大橋はるえ様、安田ルミ子様、(株)サポート代表取締役 中島和紀様、一般社団法人 A P バック様、(株)東京葬祭式礼推進部 課長 曾根原様、(株)



施設運営御賛助御芳名

(2020年4月～2020年12月)

ヨックモックホールディングス代表 藤縄武士様、(株)韓国人参公社 ジャパン様、吉野岳志様、東京ボランティア・市民活動センター様、吉田尚司様、加藤及宣様、東京善意銀行様、橘高弘子様、東京臨海東ロータリークラブ 会長 池田佳寿光様、右高真規子様、田辺京子様、平野啓子様、(株)龍角散様、越坂昭子様、須郷清子様、細川金子様、日向弘子様、(株)江戸川防災様、川名せつ子様、白子忠様、第一生命保険(株)江東支社葛西営業オフィス 中西様・中里様、山岸文枝様、中山律子様、特定非営利活動法人 日本介護支援協会様、全国若年性認知症支援協会 支援者連絡協議会様、田中産業(株) 代表取締役 田中康生様、東洋リネンサプライ(株)様、川口俊夫様、特定非営利活動法人 Hands On Tokyo 様、シーバイエス(株)様、田中治子様、東洋羽毛(株)代表取締役 社長 永岩謙一様、(株)龍角散 国際課 伊藤和人様、藤巻晴美様、大岡壽子様、(一社)

後援会加入のお願い

皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

■お申し込みは下記まで

社会福祉法人東京栄和会
なぎさ音楽後援会
事務局 なぎさ音楽苑
江戸川区西葛西 8-1-1
☎ 03-3675-1201

会費 個人 一口 1,000 円
団体 一口 5,000 円

会長 安齋久喜
事務局 平井 剛

■御寄付の部

西野喜代子様、草間俊子様、イオン葛西店様、下山榮子様、細矢由美様、行船石油(株) 田中一郎様、佐久間茂様、エームサビス(株)様、なぎさ音楽苑 職員自治会様、島田邦男様、清新南ハイッ自治会 中村須美恵様、なぎさ音楽苑 山本綾子様、三宅高明様、渡辺いと子様、渡辺厚子様、渡辺共栄様、山下セイ子様、伊藤昭勝様、青谷懿様、遠藤和子様

*心温まるご支援に感謝いたします。尚、宛行事に伴うお祝いは割愛させていただきます。

食品ロス・リボンセンター様、原慎治様、南里芳子様



文集なぎさ第76号

〈令和3年5月26日発行〉

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ音楽苑

発行者 苑長 池田めぐみ
編集 「なぎさ」文集委員
(遠藤・吉村・鳥居)

〒134-0088 江戸川区西葛西 8-1-1

info@tokyoeiwakai.or.jp

http://www.tokyoeiwakai.or.jp

TEL.03-3675-1201 FAX.03-3675-1203

制作 (株)明光企画

編集後記

引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大が続いております。昨年は収束の見通しが立たず不安な日々を過ごしてまいりましたが、ワクチン接種が開始し、一縷の希望を見いだせた方も多いのではないかと思います。すぐにコロナ以前と同様の生活をするのは難しいかもしれませんが、友人と会う・旅行に行くなどの明るい未来を想像できるようになりました。

当苑では感染症予防に取り組むとともに、当苑のサービスをご利用されている方や地域の方が安心して過ごせるように事業を継続しております。また、『文集なぎさ』では当苑の取り組みをお伝えするとともに、皆様に明るい話題を提供できるように努めていきたいと考えております。



(鳥居)